

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 5	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Influence of gender on the association of alcohol drinking with blood pressure. 飲酒と血圧との関連における性の影響	
執筆者 Wakabayashi I.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Am J Hypertens. 2008 Dec;21(12):1310-7. Epub 2008 Oct 16.	
キーワード 飲酒、血圧、男女差、性差	
要 旨 目的： 飲酒と血圧との関連において性の影響があるかを検証する。	
方法： 43,810 人の健康な男女 (35-54 歳) からなる対象者集団を一日平均エタノール摂取量により 5 群に分けた (非飲酒、極軽度飲酒：<10 g/日、軽度飲酒：10~<20 g/日、中等量飲酒：20~<30 g/日、多量飲酒：30 g/日以上)。年齢、体重、喫煙歴で調整後、各群において変数の平均値を比較した。	
結果： 収縮期血圧に関しては、男性では非飲酒者に比べて多量飲酒者および中等量飲酒者のほうが有意に高かった。しかし女性の収縮期血圧では、多量飲酒者は非飲酒者に比べて有意に高かったが中等量飲酒者は有意ではなかった。拡張期血圧に関しては男女とも、軽度、中等量、大量飲酒者のいずれの群でも非飲酒者に比べて有意に高かった。非飲酒者群と飲酒者群との血圧差は収縮期、拡張期ともに男性のほうが女性よりも大きかった。また血清 HDL (高比重リポ蛋白) コレステロールは、男女とも飲酒者 4 群の方が非飲酒者群に比べて高く、その差は女性の方が男性より大きかった。これらの結果は年齢やアルコール摂取量をマッチさせた対象者群で解析しても同様であった。	
結論： アルコール摂取による血圧上昇は男性のほうが女性より急峻であることが示唆された。	